定年退職に思う

フィールド科学系部門　生物科学班
向井 誠二

広島大学技術センターも2004年4月に大学法人化を契機にスタートしました．しかし，技術職員の所属を一元化し全てをまとめて旨く軌道にのって行けることは，個々の職務の内容により大変なことだと思いました．にもかかわらず，技術センター長をはじめとする皆さんの努力により，今では日本を代表する立派な広島大学技術センターが構築されたことは，輝かしいことだと思っております．私も在職中に皆様の仲間に入れて頂き，色々と快くご指導・相談などして頂いたことは本当に有難く，また良き仲間に出会えたことに感謝しております．

私は，昭和56年から理学研究科附属宮島自然植物実験所に29年間お世話になりました．今思えば長いようで短く感じ，特に年を追うごとに急加速で過ぎ去った気がいたします．

職場では，利便性が悪いことから想定外の業務も当然のごとくこなさなければ機能せず，皆さんから思われると異例であるかも知れません．色々と多種多方面の業務までさせていただいたことは，結果としては良い勉強になったと思います．

今思えば，時間があれば実験所の他の業務（標本管理・データベース構築など）にも時間を費やせなかったのかと少し残念に思っております．

私の職場では，原始的な業務も多く勤務当初は，道路も全く荒れた未舗装の状態であり復旧のため土木作業に明け暮れたことや，水道も蛇口を捻れば水が出るという環境ではなく，水源地・濾過槽の清掃には，度々地元住民の協力を得ながらの作業したことなど，思えば懐かしき良き思い出です．今は道路も舗装され，水源地も改良され，また松枯れ倒木，度々あった停電もなくなり便利で快適になりました．

また，過去3回ほど台風の直撃により園内施設が壊滅的打撃を受け復旧に携わったことは，未だに忘れません．特に1991年9月の19号台風の時に，園内倒木撤去の時に少ない予算の中から捻出し，初めてチェンソーを買って頂いた時は嬉しくて感動したことは忘れがたき良き思い出です．毎年台風シーズンが終わることにより無事に一年が越せることの安堵感は忘れませんでした．これからは定年により台風被害から解放されることの方が大きいのかもしれません．

また，社会貢献としても地域との関わりも重要であり，宮島自然植物実験所は地域住民やボランティア団体など，人の繋がりにより協力関係を保ち情報源を得ながら運営出来ていることも忘れてはならないと思いました．

特に，毎月一回実施している植物自然観察会などを通じて多方面の方々と多く巡り会えたことも思い出であり，2010年秋には記念すべき500回の年になります．

学生達にも指導･助言などもありましたが，学生の中には教わるところも多々あり，感謝しています．卒業生が，施設を訪れ近況報告をしてくれることも懐かしく思います．

大学からは遠隔地ゆえ大学関係者との繋がりが少なく，また情報の欠如により，事務的に手間取ることも多くあったが，親切に何度もご指導頂き感謝しています.

私の今までの経験から，仕事は多種多方面に柔軟性をもって対応出来ることも，技術センターの職員としては大切なことではないかと思います．また，業務については後継者に引き継ぐことは出来るが，人間関係はその人，個人の人間性の繋がりによるものが多く人間関係は大切にして頂きたいと思います.

皆さんも職場では，色々と職場環境や人間関係などで不平不満とかもあると思いますが，不満を言えばきりがありません．また，自分中心の思い上がりの時が一番危険です，常に初心忘れるべからずです．一番大切なことは，仕事をさせて頂いていると言う謙虚な気持ちと感謝を最後まで忘れないでください.

また，職場では“有難う”の一言を皆が自然に言える職場環境になれますよう祈っております.

自己啓発は忘れず誰からも教わることは無限です，限られた時間を有意義に使ってください.

最後に，技術センターのセンター長をはじめ統括その他，関係者の方々には多大なるご指導ご協力を得ながらここまで来れたことに厚くお礼申し上げます.

まだまだ，成すべきことが山積みでしたが，これからは，過去の私の反省点を基に後任者にも旨く引き継いで頂き技術センターの更なる成長を願う次第です.

こうして，無事に職務を終えられたことに心より感謝いたします.

2004.4.18　第418回　植物自然観察会－帝釈峡にて－
（筆者：最前列左より3番目）

2009.5.9　ミヤジマトンボ野生生物保護推進委員として環境整備のとき
（筆者：前列右から3番目）